

第58回 「予算」や「計画」は誰のためのもの？

私自身が無計画に仕事しているため、ずいぶん間を空けてしまいました(+o+)。

たびたび似たようなことを書いてきましたが、新年度を迎えるタイミングに合わせてまた書きます。

自治体や官公庁では「予算」の作成と議決が義務付けられています。社会福祉法人やNPO法人でも、これに準じて「予算」を策定し、総会議決などの手続きを踏んでいるところが多いと思います。しかしこの「予算」が、その団体の持つ前向きな目標に役立てられているかどうかと言えば、あやしいものがあります。

自治体などの予算制度は、役人が税金を垂れ流ししたり異なる目的に使ったりしないように、議員や住民が民主的にコントロールできるようにすることが本来の目的です。

一方、前向きに経営目標を達しようとしている民間企業の「予算」は、似て非なるものです。自ら立てた経営目標のうち、一定期間のお金の流れという形で表現できるものについて、自分たちの意思で自分たちの活動をチェックし、改善してゆくためのものです（投資家や金融機関向けという側面もありますが、それは現在では主ではなく従です）。

「工賃向上」といった前向きな（しかもお金で表現できる）目標を持つ事業所にとっての「予算」は、まさに後者であるべきものです。「計画」と言われるものも同様です。

そして前向きな目標達成のための「予算」や「計画」であれば、できるだけ多くの人が関わり、できるだけ率直に議論して策定すべきものです。そうでなければ、単なる「押し付け」とみなされても仕方ありません。

また、「予算」や「計画」は、作りっぱなしとか翌年度の総会になって振り返るのではあまり意味はありません。期間中に、短いサイクルで執行状況をチェックするべきものです（この点については、前回記事『工賃向上』のために、数値の分析が何故必要か？』で書きました。）。

皆様の事業所でも、自らのために「予算」や「計画」を活かす仕組みや風土があるかどうか、ご検討ください。